



平成 29 年 5 月 16 日
海 上 保 安 庁

フィリピン共和国への航空機派遣について(結果概要)

～フィリピン沿岸警備隊との連携・協力関係の強化～

海上保安庁では、5月12日から14日の間、フィリピン共和国に当庁航空機を派遣し、関係機関との間で海賊対処に係る連携訓練、意見・情報交換を実施しました。

今回の派遣においては、日本がフィリピン沿岸警備隊に供与した40メートル級巡視艇と初めて連携訓練を実施するなど、フィリピン共和国の海上保安機関との連携・協力関係の強化を図りました。

今回の連携訓練は、本年1月に日比海上保安機関間において締結された長官級協力覚書に基づく初めての取り組みとして行われたもので、当庁航空機がフィリピン近海の公海上をしよう戒中のところ、昨年来海賊・武装強盗などの事案が急増しているスルー諸島付近海域で海賊等事案が発生したとの想定のもと実施されました。

ReCAAP情報共有センターからの第一報から始まり、当庁航空機はフィリピン沿岸警備隊(PCG)から対応要請を受け、本年3月就役したフィリピン沿岸警備隊の新鋭巡視艇(日本がフィリピン沿岸警備隊に供与した40メートル級巡視艇)とともに海賊対処に係る連携訓練を行いました。

引き続き海上保安庁は、東南アジア自身の努力を後押しし、地域の平和と繁栄を支えるため、東南アジア諸国海上保安機関との連携・協力を推進してまいります。

※ ReCAAP 情報共有センター

ReCAAP 情報共有センターは、海賊・海上武装強盗対策のための地域協力を促進する国際機関で、2006年に発効した ReCAAP(アジア海賊対策地域協力協定)に基づきシンガポールに設置され、海賊等の情報共有等を実施。日本からは歴代事務局長及び事務局長補が派遣され、うち事務局長補は海上保安庁から出向。

1. 派遣航空機
第十一管区海上保安本部那覇航空基地所属 ファルコン900「ちゅらわし」
2. 派遣者
岩並 秀一(いわなみ しゅういち) 海上保安庁海上保安監
他12名(搭乗員含む)
3. 派遣国(寄港地)
フィリピン共和国(マニラ)
4. 日程等
5月12日(金) 那覇発、マニラ着、フィリピン沿岸警備隊等との意見・情報交換
13日(土) フィリピン沿岸警備隊及びReCAAP情報共有センターとの海賊
対処連携訓練
14日(日) マニラ発、那覇着

フィリピンでの様子



PCGへの表敬訪問
(左：海上保安監、右：PCG長官代行)



連携訓練：事前協議中
(当庁航空機内)



日本供与のPCG巡視艇と会合、通信訓練
(当庁航空機から撮影)



PCG巡視艇を確認する海上保安監
(当庁航空機から撮影)

